知事選出馬へ　重なる役柄

Style アイコン

【シンシア・ニクソン】

次期ニューヨーク州知事選挙への出馬を表明して注目を浴びるシンシア・ニクソン（52）は、社会現象を巻き起こした米国のテレビドラマ「セックス・アンド・ザ・シティ」のミランダ役で知られる女優です。民主党の候補を決める予備選挙で、3期目の当選を目指す現職のアンドリュー・クオモ知事に挑むことになります。

ニューヨークを愛する市民として、米国でもっとも貧富の格差が激しく、不平等が広がるこの州の現状を変えたい、という意志をニクソンは表明しています。彼女は「指導者たちへの幻滅」にも触れていますが、出馬を後押しした時代背景には、現在の米大統領が就任して以来、米国に広がる政治不信があります。

ロイター

米経済誌フォーブスの記事によれば、2016年以降、5人に1人の米国人が政治的なデモに参加し、半数以上の米国人が既に制度は崩壊しているとみなしているとのこと。大規模な政治的デモが行われることも増えました。

このような現状を受け、人々が虚構のキャラクターを見る目も変化しました。「セックス・アンド・ザ・シティ」に登場する4人のキャラクターのうち、ハーバード大学出身の弁護士、ミランダはかつてもっとも「おしゃれではない」役柄と見られていました。

ところが、米国民の政治意識の高まりを受け、「硬派」ミランダの人気は急上昇。ミランダを演じたニクソン自身が、現実世界で政治的な活動のリーダーシップをとり、性的少数者（LGBT）のために闘っていることも、ミランダ人気に貢献しています。

現実のニクソンは14歳から俳優業を始め、私生活ではバイセクシュアルを公言しています。以前のパートナーは男性で、子供2人をもうけましたが、現在は女性のパートナーと同性婚をしています。

昨年「私たちはみんなミランダであるべき（We Should All Be Mirandas）」というスローガンTシャツが作られ、現在はニクソンへの支持を表明するTシャツとして着られています。

ドラマの中のミランダと現実のニクソンが一体となり、人々に新しいリーダー像を夢見させているという印象です。レーガン大統領やシュワルツェネッガー知事を生んだ国、夢が現実になる可能性は決して小さくはありません。

（エッセイスト　中野香織）